令和元年度　学校評価

伊予市立伊予小学校

【 評価の基準】

Ａ：目標を達成　　（８割以上が肯定）
Ｂ：おおむね目標を達成　　（６割以上が肯定）
Ｃ：あまり達成できていない（６割未満が肯定）
※　各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【目標値】８０％が肯定　以下同様

【評価母体数】

教職員　２３名
児童　４１２名
保護者　４０７名
地域　２９名

【 評価の基準・肯定割合】
◎８割以上肯定
〇６割以上肯定
△６割未満が肯定

【アンケートの内容】
ア：たいへんよい
イ：よい
ウ：あまりよくない
エ：よくない
オ：わからない

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●　・　改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果（%）ア	イ	ウ	エ	オ
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣（1~3 年生は30 分以上　4 年生以上は、学年×10 分）以上学習する習慣が身に付いている。	B	●　保護者の評価が、教職員・児童の評価より低い。宿題や家庭学習ノートは提出していても、自主的に取り組むことができていない児童も多いと推測される。 ◆　学年に応じで適切な宿題を出すとともに、個々の児童の実態把握や個別指導に努め、学習習慣が定着するよう家庭との連携の仕方を工夫していく。また、よい取組を紹介するなどして家庭学習への意欲を高めていきたい。	教職員	◎ 83	17	66	17	0	0
					児童	〇 79	35	44	17	4	0
					保護者	〇 61	19	42	32	7	0
					地域						
		発達段階に応じた表現力（話す・書く）が身に付いている。	B	●　教職員、児童、保護者の評価のずれが大きい。それぞれの判断基準に違いがあると思われる。全体としては、発達段階に応じた表現力は、目標に達していない。 ◆　日常の生活場面で活用できる力が向上するよう、様々な場面で伝える機会を多く取り入れる。スピーチや話合い活動、短作文の記述などの「話す・書く」に焦点を当てた取組を通して表現することに慣れさせていきたい。また、発達段階に応じて身に付けさせたい表現力を具体的に伝え、共通理解を図っていきたい。	教職員	△ 58	0	58	42	0	0
					児童	◎ 87	51	36	10	3	0
					保護者	〇 71	17	54	21	5	3
					地域						
		学年に応じた漢字の読み書きの力や計算の力の基礎・基本がほぼ身に付いている。　（漢字・計算の習得率 80%以上）	A	●　学年が上がるにつれ難しくなるが、全体としては漢字、計算ともに目標値に達している。 ◆　朝のドリル学習「学びの広場」や個別指導、日々の家庭学習課題への取組を継続し、分かる・楽しい授業への更なる授業改善に努めていく。	漢字テスト	◎ 87					
					計算テスト	◎ 80					
	心の教育の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切にする心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	●　週１時間の確実な授業実践における指導の積み上げがなされ、自分の生活を振り返り、よりよい生き方について深く考えることができるようになってきている。 ◆　今後も「考え、議論する道徳」の授業の充実や他教科・体験活動と結びつけた効果的な指導方法の工夫等を探り、実践力を養っていく。	教職員	◎ 95	0	95	5	0	0
					児童	◎ 96	69	27	3	1	0
					保護者	◎ 91	32	59	6	1	2
					地域						
		一人一人の違いを認め合い、人権を大切にする集団づくりがなされている。	A	●　人権・同和教育視点の授業実践や生徒指導、委員会活動や集会、ハッピーの木などの環境整備、保護者への啓発など、全教職員で問題意識を持って取り組んだことが、全体の人権意識の高揚につながった。少数ではあるが、不安を感じている児童・保護者もいるので、真摯に向き合い、更に人権を大切にする集団づくりに努めたい。 ◆　教育相談等を通して一人一人の悩みに対応するとともに、常に身の回りの偏見や不合理、差別を見抜き、許さない姿勢を示していきたい。	教職員	◎ 100	5	95	0	0	0
					児童	◎ 92	58	34	6	2	0
					保護者	◎ 85	24	61	8	1	6
					地域						
	健康教育の推進	楽しく学校生活が送れている。	A	●　ほとんどの児童が安心して楽しい学校生活を送っている。学習や運動の達成感、温かい人間関係などを大切にして、引き続き全員が明るく生き生きと活動できる場所になるよう努めなければならない。 ◆　定期的な学校生活アンケートと教育相談、保護者との連携により、問題があったときには、児童の思いに寄り添いながら対応していく。	教職員	◎ 100	29	71	0	0	0
					児童	◎ 92	60	32	6	2	0
					保護者	◎ 93	45	48	5	1	1
					地域						
		「早ね、（低学年は９時、中学年は９時半、高学年は 10 時）早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	●　生活スタイルが多様化し、塾や習い事で遅い時刻に帰宅する児童やゲームやインターネットやスマホ等の使用に夢中になって寝るのが遅くなってしまい、朝起きにくかったり、疲れが残ってしまう児童もいる。 ◆　アンケートの結果も活用して一人一人に規則正しい生活習慣の重要性を理解させるとともに、保健便り等でも家庭の教育力を高め、学級担任と養護教諭が連携して健康的な生活習慣の定着を図りたい。	教職員	〇 75	0	75	25	0	0
					児童	〇 77	49	28	15	8	0
					保護者	〇 76	38	38	19	5	0
					地域						
		外遊びや個に応じた体力つくり（マラソンやなわとびなど）で健康の保持・増進に努めている。	A	●　昼休みの戸外での遊びも奨励し、雨の日には、学年で順番に体育館も開放し、体を動かして遊ぶ場と機会をできるだけ確保するよう努めている。また、業間マラソンや縄跳びの活性化を目指した取組によって目標を持って運動に取り組む児童が増えており、肯定的な回答が多かったと思われる。 ◆　縄跳びは運動が苦手な児童も取り組みやすく少数でも楽しめるため、今後も啓発していきたい。３学期は全校で業間縄跳びも行っている。	教職員	◎ 95	20	75	5	0	0
					児童	◎ 86	60	26	12	2	0
					保護者	〇 71	25	46	24	5	0
					地域						

学校関係者評価委員の所見	学校の対応
〇　表現力について、児童に対して教職員の評価が低い。児童の個人差も大きく工夫が必要である。 〇　全員が安心して楽しく学校生活が送れるよう、今後も配慮してほしい。	〇　授業の中に、ペアやグループで話し合う活動や自分の考えを記述したり説明したりする活動を取り入れ、表現力を育成していきたい。 〇　何らかの悩みを持っている児童には、日常の観察や教育相談、定期的な学校生活アンケート等を通して児童の思いに寄り添いながら継続的に対応していきたい。

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果% ア	イ	ウ	エ	オ
生徒指導	生徒指導の徹底	いつでもどこでも自分から先に挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	C	●　朝のハイタッチ挨拶運動や「挨拶の木」の取組など、児童会や委員会の主体的な活動により、挨拶に対する意識は高まってきた。しかし、意識の継続が難しく、いつでもどこでも自分から先に挨拶できているとはいえない。 ◆　児童自身が挨拶の気持ちよさや大切さを感じられるように留意しながら、継続的に力を入れて指導していく。学校・家庭・地域が協力し、それぞれの立場で率先して子どもの手本となるよう努める。	教職員	△ 33	0	33	67	0	0
					児童	◎ 83	37	46	14	3	0
					保護者	△ 55	8	47	36	7	2
					地域	○ 79	24	55	21	0	0
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	A	●　どの学級や児童にも起こりうる問題として認識を持ち、早期対応の努力を全力で行うべきである。日々の児童の様子の見取りや学校生活アンケート、毎月の生徒指導部会での情報交換等で実態を把握し、早期解決に努めた。本人や保護者からの訴えが重要な場合も多いため、相談できる体制や信頼関係を築く必要がある。 ◆　実態把握のための取組を確実に進めていく。保護者との情報共有や教育相談員、スクールカウンセラーや外部諸機関とも連携も図り、児童や保護者の思いに寄り添いながら対応していきたい。	教職員	◎ 100	33	67	0	0	0
					児童	◎ 90	62	28	7	3	0
					保護者	○ 69	15	54	17	2	12
					地域						
特別支援教育の推進	特別支援教育の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	A	●　個別の指導計画等の作成にあたり、保護者の同意も得て、具体的な支援の在り方を探ることができた。 ◆　スモールステップの目標を持ち、個に応じた支援に当たっていきたい。また、支援の記録を蓄積することで、次年度へのスムーズな引継ができるよう努めたい。来年度は特別支援学級が１つ新設される予定であり、児童に応じた適切な対応ができるよう、教職員の研修も早い段階から進めていく。	教職員	◎ 91	29	62	9	0	0
					児童						
					保護者						
					地域						
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	●　特別な配慮や支援を要する児童への対応について、教職員で共通理解を図るとともに、特別支援教育巡回相談員、市の教育相談員、スクールカウンセラー等とも連携して指導に当たった。通級指導教室に通級の児童については、通級担当と学級担任との情報交換や連携を図って指導に当たることができた。 ◆　特別支援教育巡回相談員等のアドバイスも受けながら、より効果的な支援ができるよう努める。	教職員	◎ 95	43	52	5	0	0
					児童						
					保護者						
					地域						
研修	指導力の向上	実践力のある教師として、分かりやすく工夫した授業に努めている。	A	●　教材研究や情報交換など、学年間・教科間の協力体制が整い、指導方法の工夫改善が図られている。若年教職員への指導や助言も熱心に行われている。 ◆　児童の興味・関心を高める課題提示や教材・教具の工夫、ＩＣＴの活用などを更に研究していく必要がある。参観日やノート等を通して、保護者にも学習の様子を伝えていく。	教職員	◎ 95	5	90	0	5	0
					児童	◎ 87	53	34	9	4	0
					保護者	○ 79	20	59	10	1	10
					地域						
		信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	A	●　学年部、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、前担任、生活支援員、巡回相談員、管理職、家庭等と児童の実態や指導の仕方などについて情報交換や相談を行い、連携して一人一人に合った対応に努めた。 ◆　家庭との協力体制を一層充実させ、児童のよりよい成長のために尽力したい。	教職員	◎ 95	19	76	0	5	0
					児童						
					保護者						
					地域						
		切磋琢磨する教師として、常に学ぶ姿勢をもち､自己を向上させようとしている。	A	●　研究授業や研究協議、普段からの学年部での教材研究などを通して、学び合う教師集団が形成されている。校外での様々な研修にも声を掛け合って積極的に参加し、研鑽に努めている。 ◆　研修内容について教職員の希望を取り入れて内容の充実を図るとともに、それぞれの持つ優れた教育技術や研修で得た情報等を伝え合い、共に向上していこうとする姿勢を大切にしていきたい。	教職員	◎ 95	19	76	5	0	0
					児童						
					保護者						
					地域						

学校関係者評価委員の所見	○　挨拶について評価にギャップがある。特に教職員の評価が低くなっているが、挨拶ができなかった子が少しでもできるようになったなどのよいところや進歩を認めるようなものさしにし、もっとおおらかに捉えたのでもよいのではないか。 ○　保護者のアンケート結果に「分からない」が多い項目がある。アンケートとともに資料を付けるなどして判断材料となる情報を提供するとよい。 ○　特別支援教育について教職員のみの評価となっているが、保護者の意見も反映できるようにするとよいのではないか。 ○　特別支援教育巡回相談員、市の教育相談員、スクールカウンセラー等の活用状況はどのようになっているか。 ○　教授法を若い先生方にどんどん教えていくなど、人材の育成を進めてほしい。	学校の対応	○　挨拶の実態にも差がある。児童会や委員会活動による主体的な推進運動等を行っているが、「いつでも、どこでも、自分から進んで」となると十分でないと思われる。学校・家庭・地域でともに挨拶運動に根気よく取り組むとともに、評価のものさしについても見直したい。 ○　学校での取組や実態などをできるだけ伝えることができるよう、情報発信に努めたい。 ○　保護者アンケートにも項目を入れ、広く意見をいただき、改善につなげていけるようにしたい。 ○　保護者からの相談件数は少ない。児童の様子を見て、教員との情報交換やアドバイス、個別に配慮が必要な児童の相談が中心となっている。 ○　今年度、初任者は３回、５年教職経験者は１回研究授業を行い、その後全教員で協議を行った。その他にも、ベテランの先生の授業を参観するなど研修に努めている。

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果% ア	イ	ウ	エ	オ
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	●　火災、地震、不審者対応等、様々な危機を想定して避難訓練・防災訓練を実施し、教師及び児童の安全対応能力を高めている。今年度は、５月に小中合同の避難訓練も実施した。児童に予告せず、休憩時間等にも実施することで自ら考え行動し、自分の安全を守る意識も高まってきている。 ◆　今後も様々な場面を想定した訓練を行い、安全対応能力を高めていきたい。今年度、２学期の避難訓練では、インフルエンザの流行により、運動場や体育館への集合をひかえ、教室での安全確保の訓練と事後指導を行った。ビデオ等効果的な教材等の活用も検討し、事後指導も充実させたい。	教職員	◎ 95	38	57	5	0	0
					児童	◎ 93	63	30	5	2	0
					保護者	○ 79	16	63	15	2	4
					地域	◎ 90	17	73	0	0	10
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	●　地域の方やＰＴＡの協力により、登校時の見守り活動が充実している。情報提供に留まらず、児童への直接的な関わりやサポートをしていただき、感謝している。下校指導も可能な限り行うよう努めた。 ◆　環境整備・児童指導ともに改善を続ける。下校後の安全確保にも引き続き取り組んでいきたい。	教職員	◎ 100	33	67	0	0	0
					児童						
					保護者	○ 89	30	59	7	0	4
					地域	◎ 94	56	38	3	0	3
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	●　日常の点検や、毎月の安全点検を確実に実施し、危険箇所については、管理担当者を中心に早期の迅速な対応に努めている。 ◆　日頃から危機管理意識をしっかりと持ち、児童の安全確保を第一に考えて指導に当たる。また、清掃活動や校内掲示等にも配慮し、環境美化に努める。	教職員	◎ 100	24	76	0	0	0
					児童	◎ 91	55	36	7	2	0
					保護者	◎ 91	31	60	6	0	3
					地域	◎ 97	59	38	0	0	3
保護者・地域住民との連携	地域にたる根ざした特色ある学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	A	●　学年ごとに特色ある教育活動が計画されている。地域の人・もの・自然を効果的に活用した教育活動を通して知識や技能を得ることができている。 ◆　活動の内容が限られているため、今後、地域の方の人材情報を広げる必要がある。教育支援ボランティアリストの更新、活用を図る。	教職員	◎ 96	48	48	4	0	0
					児童						
					保護者	◎ 94	37	57	3	0	3
					地域	○ 76	38	38	3	0	21
		学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	●　ホームページの充実に力を入れ、学校行事や各学年の学習や活動の様子を迅速に更新し、情報を提供することができた。 ◆　今後も積極的に情報発信し、学校の教育活動への理解や協力が得られるよう努めたい。	教職員	◎ 100	71	29	0	0	0
					児童						
					保護者	◎ 94	45	49	3	0	3
					地域	◎ 97	76	21	3	0	0
		幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	●　幼稚園・保育所とは年に３回の保幼小連絡協議会の開催や保育参観、授業参観における交流、中学校とは、授業参観や運動会等の行事、芋植えや芋掘り等の交流、職場体験の受け入れ等を行った。 ◆　保・幼・小・中の隣接した立地条件を生かし、密に連携を図ることで子どもたちの連続した成長の様子を見守り、指導・支援に生かしたい。	教職員	◎ 81	24	57	19	0	0
					児童						
					保護者	◎ 88	30	58	6	0	6
					地域	◎ 97	52	45	0	0	3
業務改善	教職員の負担軽減	時間的ゆとりがある。（早く退勤できる環境になっている。）	C	●　教職員数が昨年に比べて減り、校務の負担が増している。互いに気配りし、補い合っているが、追い付かず、退勤時間が遅くなりがちである。 ◆　行事の簡素化や会議の効率化を図り、放課後の時間を確保するよう努めたい。	教職員	△ 48	11	37	53	0	0
		心にゆとりがある。（ストレスの少ない環境になっている。）	B	●　忙しい中でも互いに気遣い、支え合う温かい雰囲気があるが、時間的なゆとりがなく、心の負担にもなっている。 ◆　時間的なゆとりが持てるよう業務改善に努めるとともに、気軽に声掛けや相談ができるよう日頃からコミュニケーションを図っていく。	教職員	○ 79	32	47	21	0	0

学校関係者評価委員の所見	○　防災について、次々と新しいことをしなくてもよい。繰り返し同じことをしてもよいので普通のこと、簡単なことをしっかりとして「自分の身は自分で守る」という意識を持たせることが大切である。 ○　先生方のストレスはどうか。	学校の対応	○　教師はいろいろな場合を想定しておく必要があるが、児童は発達段階に応じて身を守る大事な行動を取ることができるよう避難訓練の内容や方法を改善していきたい。 ○　伊予小学校は、生徒指導上のトラブルが少なくありがたい。業務改善に努め、ゆとりを持って児童と触れ合うことができるようにしていきたい。